



⋮

(一部抜粋)

安心して安全に登下校ができるように 危険を知ることが、身を守ることに繋がる。

行動範囲がぐっと広がる小学生の時期は、大人の目の届かないところで事故や事件に巻き込まれる場合も少なくありません。

大切なのは、子ども自身が何が危険なものなのかを知っておくことと、危険を回避する方法を身につけておくことです。「家の前の道は日中は車が多いから子どもだけで歩くのは危険。ちょっと遠回りになるけれど、車の少ない安全な道を通って遊びに行こうね。」というように、子どもがわかるように、何度も伝えることが大切です。

こうしたやりとりの中で、子どもは危険なものを知り、どう回避するかを学んでいきます。

また、思いがけない危険もあります。例えば、見知らぬ人からイヤなことをされそうになったときには、どうすればよいのかを教えることが大切です。

— 文部科学省 家庭教育手帳より —

交通事故や不審者などの安全対策としまして、保護者をはじめ、地域の多くの見守りボランティア方々のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。児童一人一人が危険回避のため判断力・行動力が育成されますよう、今後ともよろしく願いいたします。